

富良野市民憲章

わたしたちは、北海道の中心標が立つ、富良野の市民です。

わたしたちは、この美しい自然の環境につつまれながら新しい生産都市を

つくりあげるために自信と誇りをもって進みます。

1, 明るく

健康で働くまち富良野

推進目標

- ・ 健康な心と からだをつくりましょう。
- ・ 清潔で衛生的な まちにしましょう。
- ・ スポーツに親しみ レクリエーションを工夫しましょう。
- ・ 仕事の合理化をめざし 技術の向上に努めましょう。
- ・ 子どもを すこやかに 育てましょう。
- ・ みんなで仕事をわけあって働く たのしい家庭をつくりましょう。

1, あたたかく

みんなの幸せを願うまち富良野

推進目標

- ・ お互いが 心をひらき 話し合いましょう。
- ・ 恵まれない人びとに 温かい手を さしのべましょう。
- ・ ことばづかいに気をつけ 誰にでも優しくしましょう。
- ・ 集会や 会議の時刻を 守りましょう。
- ・ 公共の施設を大切に し 木や花を愛して ゆたかな郷土をつくりましょう。
- ・ 交通の規則を守り 安全なまちにしましょう。

1, 大きく

未来に生きる知性のまち富良野

推進目標

- ・ 徳性と 豊かな知性を みがきあいましょう。
- ・ 子どもたちに あたたかく ゆきとどいた教育をしましょう。
- ・ 理想的な 教育環境を ととのえましょう。
- ・ 郷土の文化活動に 進んで参加しましょう。
- ・ 郷土の文化財を 心から愛護しましょう。
- ・ 郷土にふさわしい 衣食住の工夫を いたしましょう。
- ・ 世界の人びとと手をにぎり 平和で高い文化のまちにしましょう。

富良野市学校教育中期計画策定の目的

1 国の動向

近年、地方分権が進む中で、教育委員会が自らの主体性を発揮し、地域住民の期待や要望に応える教育行政を推進していくことが強く求められています。

平成 17 年 10 月には中央教育審議会から、義務教育改革推進を求めた答申「新しい時代の義務教育を創造する」が提出され、確固たる教育条件の整備が示されました。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正の中でも、教育委員会の責任体制の明確化・体制の充実、教育における地方分権の推進がうたわれました。

その中において、市町村や学校に対し、学校教育実施主体として権限と責任を拡大し、自由度を高める分権改革を進めるとともに、教育の目標を明確にして結果を検証し、教育の質を保証する学校教育の使命の明確化と教育内容の改善が求められています。

2 富良野市の現況

「スキーのまち」、「食とワインのまち」、「演劇のまち」、そして北海道の中心標のあるへそのまち「富良野」。この美しい自然や文化の香り漂う富良野市は、未来に向け、新しい生産都市の構築を目指しています。そして、その基盤となる学校教育の果たす役割はますます重要となっています。

富良野市では、学校教育の推進に当たって、これまでも年度ごとに、市独自の「教育計画」を示してきました。さらに富良野市教育委員会より委嘱を受けた学校教育指導委員会の中で、富良野市の抱える教育問題や課題について検証し、その解決方策を探ってきました。

しかしながら様々な教育改革への対応や保護者、地域住民等の期待と信頼に応える教育の一層の充実をめざすため、学校教育の具体的な方向性について、見通しをもった計画の必要性が求められるようになりました。

<変化する社会状況>

社会構造の変化

- ・社会全体の規範意識の低下、価値観の多様化、少子高齢化、核家族化

高度化・多様化する教育

- ・科学技術の発展、情報化の進展
- ・国際化の進展

「地方の時代」への対応

- ・地域の特性の発揮
- ・地域の教育力（人的・環境）の活用

富良野の地域実態への対応

- ・学校規模の縮小化、学校再編

<富良野市における学校教育の方向性>

新しい時代を創造する豊かな人間性の育成
「知・徳・体」の調和のとれた子どもを育成する学校教育の充実
学校、家庭、地域社会が連携した新しい学校教育の推進
富良野の特性（演劇・食育など）を生かし、発展させる学校教育の推進



富良野市学校教育中期計画

3 中期計画の性格

主に義務教育機関における小・中学生の教育に関する改革プログラムを提示することによって、富良野市の特色ある教育を実現する指針とします。

4 中期計画の期間

平成20年度を初年度とする5年間を計画期間とします。なお、3年目に計画の見直しを予定しています。

5 中期計画の策定体制

「富良野市学校教育中期計画」の策定に向け、富良野市教育委員会内に10名の委員からなる「学校教育指導委員会」を設置するとともに、幅広い視点からの意見や助言を得るため、富良野市校長会、富良野市教頭会、そして、富良野市教育委員会学校教育アドバイザーからの意見を広く反映しました。

富良野市の学校教育の現状と課題

1 学校教育を取り巻く環境の変化と背景

(1) 社会の変化

21世紀を迎え、交通・通信ネットワークの発達により、経済を中心として人・物・情報が地域や国を超えて交流する国際化がさらに加速しています。また、地球温暖化等の環境問題も地球規模に拡大していることから、市民生活や経済活動における世界的な相互依存関係が一層深まるものと考えられます。

わが国では、このような国際経済社会の急激な変化の中であって、少子高齢化・人口減少社会が到来し、経済、労働、福祉、教育などの生活のあらゆる面において時代の大きな変化に直面しています。さらに、これまでは物質的豊かさを追い求めてきた人々の生活観、価値観が大きく変化し、生活様式や市民ニーズの多様化も進んできています。

また、市民に対して直接サービスを担う地方自治体においても、地方分権が進展することにより自立（自律）的な都市運営が求められ、都市間競争もより激化していくものと考えられ、様々な面で大きな変革期にあるといえます。

(2) 教育を取り巻く環境の変化

わが国では、社会経済情勢が大きな転換期を迎え、社会の変化に対応すべく、様々な分野で構造改革が進められています。

教育分野も例外ではなく、戦後の社会を支えてきた教育制度についても、21世紀を展望した人材の育成を図るための新たな教育システムへの変革が求められています。

こうした中、国では、現在及び将来のわが国の教育の諸情勢の変化を押さえ、改めて教育の基本を確立し、その振興を図るため、これまでの教育基本法の普遍的な理念を大切にしつつ、極めて重要と考えられる理念を明確にすることを趣旨として教育基本法を改正しました。それに伴い、教育改革関連3法案（「学校教育法」「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」「教育職員免許法及び教育公務員特例法」）の一部改正を行うなど、教育改革は加速度的に進められています。

資料「国における教育改革の動向」参照

(3) 子ども・家庭を取り巻く環境の変化

私たちを取り巻く社会経済情勢の枠組みが変化する中、子どもや家庭、地域も変化を余儀なくされていますが、とりわけ社会的弱者とも言える子どもは、その影響を大きく受けています。

核家族化の進展や一世帯あたりの人数の減少などから、家庭の子育て力・教育力が低下し、親の過保護・過干渉が見られる反面、親の養育放棄（ネグレクト）や虐待など子どもを巻き込んだ暴力、犯罪が増加し、子どもの置かれた環境は一段と厳しさをましています。また、その一方で、子ども自身が加害者となる事件も多く発生しています。

子どもの生活の拠点である地域においても、特に都市部では、居住者の流動性が高くなり、地域の連帯感が低下しつつあり、地域ぐるみで子どもを育てる環境も大きく変化しています。

2 富良野市における学校教育の状況

(1) 富良野市の子どもや学校の状況

ア 少子化による児童生徒数の減少は学校規模にも影響を与えており、全体的に学校規模の縮小が著しい状況にあります。昭和57年度（25年前のピーク時）と比較すると、入学児童数は437名→217名、小学校児童数2737名→1445名、小学校学校数13校→10校（島ノ下小、山部第二小、樹海東小と樹海西小との統合）となっています。この傾向は、さらに続き、入学児童数も217名（H19.4 現在）から平成25年度には、197名まで減少することが予測されます。学校小規模化に伴い、集団スポーツや合唱・演奏の活動を行うことや、集団の中で社会性を培うことが困難になるなどの問題が生じてきます。

さらに、中学校においては専門教科教員の配置が難しくなったり、小学校では10人以下の小規模校で養護教諭や事務職員が配置されないなどの問題も生じてきます。

< 富良野市小・中学校児童生徒数・学級数（平成19年4月10日現在） >

- ・ 小学校 10校 児童数 1,445名
普通学級数 69学級、特殊学級数 22学級、教職員数 147名
- ・ 中学校 7校 生徒数 777名
普通学級数 33学級、特殊学級数 8学級、教職員数 98名

合計 児童・生徒数 2,222人 教職員数 243名

イ 平成19年度は山部第一小学校の閉校とともに、山部小学校との統合への準備が進められています。小・中学校の小規模化が進む中、市独自の再編計画の策定、さらには富良野市にふさわしい特色ある学校教育が求められています。地域の教育力を活用した学社融合事業の推進、特別支援教育やキャリア教育の充実、スキーや演劇、さらには食育教育等の推進を通し、富良野ならではの独創的な学校教育を創造する必要があります。

(2) 富良野市における動向

ア 富良野市は、平成13年度から「富良野市総合計画」10カ年の構想をもとに、快適な環境、創造性豊かな人を育む「協働・感動・生き生きふらの」の実現に向け「人にやさしいまちづくり」を推進しています。したがって、市総合計画の概念を基盤としながら、本市の学校教育の現状と課題をふまえた特色ある学校教育を推進することがいま強く求められています。

イ 富良野市教育委員会においては、これまで、国の動向や学習指導要領、そして「富良野市総合計画」との整合性を図りながら富良野市の教育の充実に努めてきました。特に学校教育の推進にあたっては、毎年「富良野市教育計画」を作成し、富良野市の教育のめざす姿（基本理念・基本姿勢・推進の重点）を各学校に示し、教育活動の活性化と内容の充実に努めてきました。その中では、学校教育において、安全な教育環境づくりに努めるとともに、生涯学習の基礎を培うという観点に立ち、学校・家庭・地域社会とが連携を一層密にして、自ら学び、明日の社会に主体的に対応し豊かな心で学び続け、たくましく生きる人を育成しながら、市民の期待に応えていかなければならないことを示しています。

ウ この度の「富良野市学校教育中期計画」の策定においては、「富良野市教育計画」に掲げた13項目の推進の重点を評価し、新たな重点と指導の観点を設定しました。

（ 巻末資料「平成18,19年度推進の重点の評価」参照）

基本理念

自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む

豊かな自然の中、優れた文化を育んできた富良野。
私たちは、その自然や文化・伝統を受け継ぎ、
日々の生活との関わりを大切にしながら、
未来へ大きく広げる役割を持っています。
また、富良野の明日に夢や希望を描き、
この地に住む仲間として力を合わせ、
理想の社会の創造に努めていくことも求められます。
そのためには、夢や希望を形にする実践力と自立の心、
豊かな感性を磨き、心を通わし、支え合う共生の心を
育てていくことが大切になります。
富良野に住む人々が生涯学習をとおして身に付ける
「学ぶこと」の楽しさや価値、「生きること」の
喜びや大切さを「未来を拓く力」とする
富良野の教育をめざし、
「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」を
基本理念として掲げます。

めざす姿

ふるさとの恵みと文化を愛し 心をかよいあわせながら 豊かな学びを育む富良野の学校教育の推進

今、富良野の学校教育には、
豊かな自然と文化を有する郷土に
愛情と誇りを持つとともに
夢や希望の実現に挑戦し、
今後の社会を担う自立の精神を備えた人、
そして、同じ社会に生きるものとして
共に支えあい、協働して未来を拓くことのできる
心豊かな人を育てることが求められています。
そのためには、主体的に学ぶ「確かな学力」、
他の人を思いやる心や感動する心の「豊かな人間性」、
そして、たくましく生きるための
「健康や体力」を育むことが大切です。
私たちの富良野の教育では、
地域や家庭との揺るぎない信頼関係に基づき
心をひとつにして子どもたちの未来を拓く
魅力あふれた富良野の学校教育を創るため
知育の木、情意の木、健康の木の「三本の木」
そして、その木を育てる「学びの大地」に託した
目標に向かい、取組を進めます。

基本理念

自立と共生の未来を拓く
心豊かでたくましい人を育む

富良野に育つ三本の木

信頼と
響き合いの中で
自ら育つ

富良野に根付く
伝統と文化で
豊かに育つ

知育の木

恵まれた自然と
食の環境の中で
すこやかに育つ

情意の木

健康の木

地域との協働で未来を拓く

学びの大地

富良野に育つ三本の木

富良野は美しい山々
そして豊かな森に囲まれたまちです
その山々と大きな森は
富良野に住む人々をやさしく包んでくれます

わたしたちは この豊かな自然にならい
富良野の子どもを育む視点として
知育の木 情意の木 そして健康の木の
三本の木を学びの大地に植えてみました

三本の木が集まると それは「森」になります
森は そこに生きるすべての生き物が
関わり合い 支えあって
生きています 育っています

富良野の子どもたちが「自立と共生」の力を身に付け
大きく育ってくれることを願い
わたしたちは 三本の木から
未来の大きな森をつくります

信頼と響き合いの中で自ら育つ

知育の木



学社融合による開かれた学校づくり
総合的な学習の時間の充実
特別支援教育の推進
「ほめて伸ばす」学習指導
幼・小・中の「学びの連続性」の実践

富良野に根付く伝統と文化で豊かに育つ

情意の木



演劇を活用した教育の推進
キャリア教育の拡充
心の教育の推進
体験活動を取り入れた教育の拡充
積極的な生徒指導

恵まれた自然と食の環境の中ですこやかに育つ

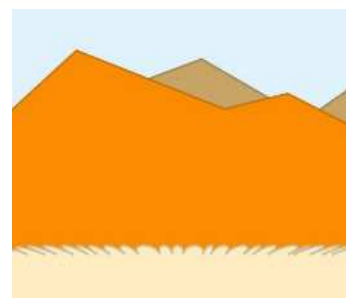
健康の木



食育教育支援の取組
・学校における栄養士等の活用
・食育指針に沿った取組
・学社融合による食育の推進
スポーツの振興
・ウインタースポーツ（スキー）教育の推進
・地域指導者の活用

地域との協働で未来を拓く

学びの大地



地域に信頼される学校経営
学社融合の拡充
地域に開く評価システム
鍛え合い、磨き合う校内研修
専門性を磨き意欲の喚起をめざす教職員の資質向上の取組